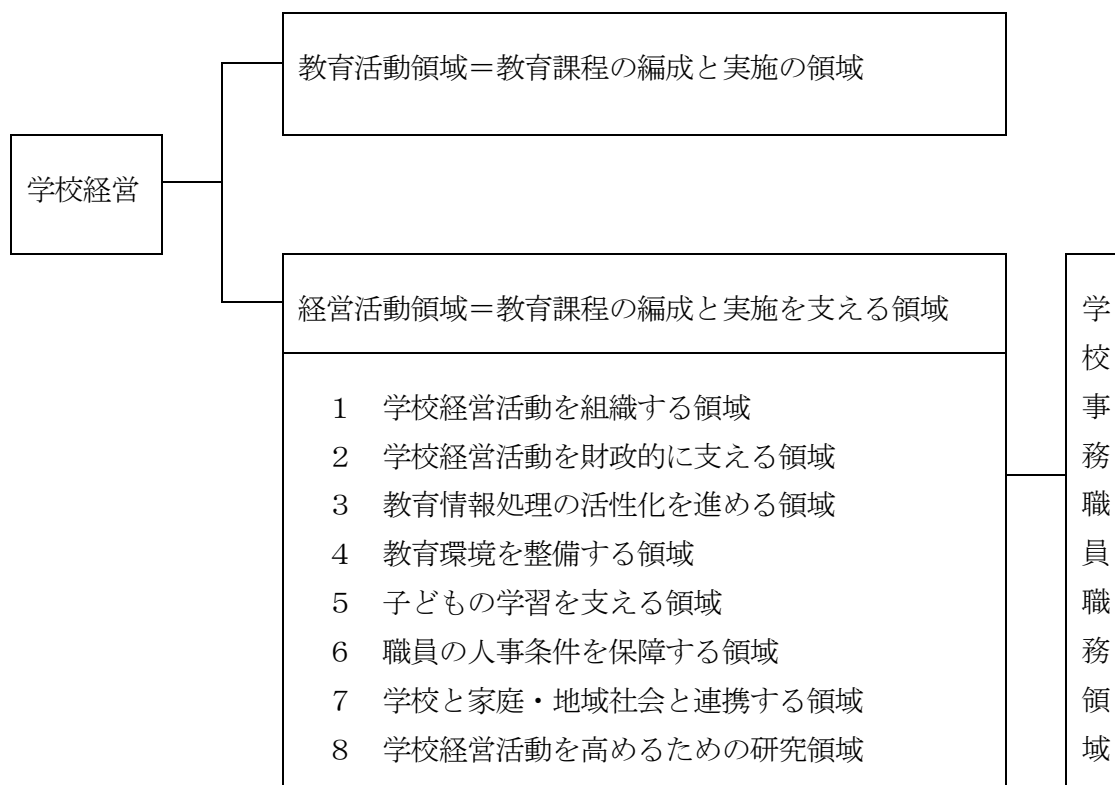


第6章 経営活動領域と学校事務職員

第1節 学校事務職員の職務領域の設定

学校教育目標の具現化へ向け、学校経営の二つの区分を図3のように8領域に区分し、領域ごとに重点等を設定し、学校事務職員の職務としてその機能を果していく。

図3 「学校事務職員の職務領域」



第2節 教育課程の編成と実施を支える8領域の主な機能

1 学校経営活動を組織する領域

- (1) 経営の参画を進める
- (2) 学校事務の組織化、標準化を進め、効率化を図る
- (3) PDSサイクル（plan-do-see）から職務を問い直し展開する

2 学校経営活動を財政的に支える領域

- (1) 教育計画の財政的保障を図る
- (2) 財務諸規則に基づく執行を確保する
- (3) 校内における確認体制を確立する

3 教育情報処理の活性化を進める領域

- (1) 情報処理（収集・分類・整理・保存・処分）の手続きを明らかにする
- (2) 個人情報の機密を守る体制をつくる
- (3) 学校内外のデータと情報をもとに各機関と連携を推進する

4 教育環境を整備する領域

- (1) 学習環境の保障を図る
- (2) 環境美化を推進する
- (3) 施設設備の法基準の遵守と保全を図る

5 子どもの学習を支える領域

- (1) ひとしく教育を受ける権利を保障する
- (2) 教材、教具を整備し、活用を推進する
- (3) 児童福祉の確保にあたる

6 職員の人事条件を保障する領域

- (1) 条例・規則等に基づき、権利保障を確保する
- (2) 福利厚生の充実を図る
- (3) 職員定数に関する情報を掌握し整理する

7 学校と家庭・地域社会と連携する領域

- (1) 開かれた学校づくりの諸条件整備にあたる
- (2) 公共の福祉を図る（公務員・地方自治として）
- (3) 家庭と共に教育環境を整備する

8 学校経営活動を高めるための研究領域

- (1) 経営活動の課題を明確にし、改善のための研究に努める
- (2) 学校事務の組織化、標準化を図るための研究に努める
- (3) 組織人としてのモラルや専門知識を高める研究と修養に努める

* 経営活動領域＝教育課程の編成と実施を支える領域＝8領域の基本的職務や目標とする事項については、別表1による。

第3節 学校事務職員の基本的な役割

学校は、さまざまな個性のある子どもに応じ教育をする場であるが、反面、教育行政の行政運営そのものでもある。その学校における学校経営とは、個に応じた教育の推進を前提とし、教育行政の行政運営の根本（法令の適正執行）とその行政過程（例えば、ポストコルプ等の過程⁽¹¹⁾）

を技術的に融合させ、計画実施する営みである。つまり、教育課程編成と実施を支える8領域（経営活動領域）は教育行政によって支えられ、法令の適正執行や行政過程から形成されている。そこに公教育としての学校の姿がある。

その学校の中で、「教育課程の編成と実施を支える8領域（経営活動領域）」を学校事務職員の職務としたことは、教育行政が支える部分、つまり、法令の適正執行や行政過程等を技術的に学校経営に融合させることを基本的な役割（行動様式）としている職としたことになる。これらの関係は、学校事務職員の日常の事務活動から理解できる。教育事務所、教育委員会との技術的連携はそれであり、実証的に示している。

資料3

(11) ギュウリックの行政過程（ポストコルブ＝P O S D C O R B）

P l a n n i n g	（計画を立てること）
O r g a n i z i n g	（組織化すること）
S t a f f i n g	（人員配置をすること）
D i r e c t i n g	（指示を与えること）
C o - O r d i n a t i n g	（調整機能のこと）
R e p o r t i n g	（報告機能のこと）
B u d g e t i n g	（予算を作成し執行すること）

第4節 領域と学校事務職員の職務

学校事務職員の職務として、教育課程の編成と実施を支える領域として8領域（以下8領域という）を設定した。これら8領域の内容は、学校の規模や小中学校の違いに影響を受けるものではない。しかし、領域内容の遂行過程においては、1校1名の配置が圧倒的に多い小中学校の中で、学校事務職員1名だけでもって、各校同じように領域内容を遂行することが極めて困難であり、現状として職務分担の量と質に影響を与えている。

これは、職務環境（学校規模、職員構成、学校環境等）の差異と学校事務職員自身の執務基準（どのように学校事務をするか）と経験をもとにした職務の遂行の習熟に差異があるからである。つまり、8領域は学校事務職員にとって職務であるとしつつも、「職務は執務基準（量的・質的・方法的）の習熟の深化にともなって拡大する」ことを意味している。

したがって、8領域の遂行は、領域遂行組織（校務分掌組織）をどのように編成し、分業と協業の関係を基に、どのように機能づけるかに置き換えられ考えられることになる。しかし、このことは、現在、各学校で編成されている校務分掌と等しく同じものと考えてのではなく、8領域の構成内容からみても、新しい視点にたって編成されるべきものである。また、将来においては経験から専門性を培い、領域を包括することを目標に置く。